

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	39
都道府県名	高知県

【 】
*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	大方町立入野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	2	1	3	10	16
児童数	36	34	40	32	50	32	3	227	

研究の概要

(1) 研究主題

一人一人の“わかる”“できる”“やってみよう”をめざして

(2) 研究主題設定の趣旨

本校の児童の実態をC R Tの結果からみると、「関心・意欲・態度」「表現の能力」「数学的な考え方」の得点が低いことが分かる。これは、授業中の児童の実態と重ね合わせても、授業に集中しにくい子ども、意欲の見られない子ども、根気のいる作業が続かない子どもなどの学習態度にも如実に現れている。そして、それは、日々の学習成果にも大きく影響していると考えられる。

本校のモットーは、「一人ももれなく、一人残らず」である。そのモットーの具現化をめざし、私達は学力向上フロンティア事業における研究主題を「一人一人の“わかる”“できる”“やってみよう”をめざして」として設定した。

特に、今年度は授業改善において“わかる”“できる”“やってみよう”の三つの観点から授業にアプローチすることを試みている。

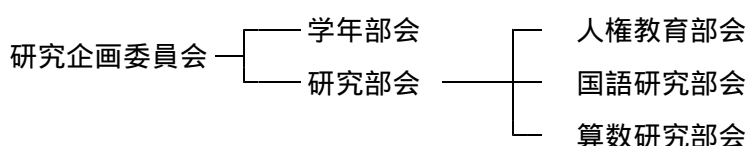
ところで、“わかる”“できる”“やってみよう”は決して階層的に変化するものではなく、それぞれの視点からのアプローチが可能であると考えている。また、“わかる”喜び、“できる”楽しさ、“やってみよう”という意欲は、それだけに留まるのではなく、他の二つの観点にも相互に影響を与えていくことであろう。私達は日々の授業において、どの視点に重点を置いた授業を仕組んでいくのかを明確にし、実践している。

また、今年度は指導と評価の一体化の具体的な手立てとして、国語・算数に絞り、単元毎の通知表と呼べる「単元のあゆみ」を作成し、保護者に返すことにした。さらに、基礎学力の向上に向けて、基礎学力の通知表と呼べる「読み書き計算のあゆみ」も発行している。

「教えるとはともに希望を語ること 学ぶとは胸に誠実(まこと)をきざむこと」というルイ・アラゴンの言葉を具現化した学校づくりをめざし、子どもの学びの期待を膨らませる学校にしていきたい。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

1) 昨年度より継続している取り組みと成果

校時表の工夫改善

チャレンジタイム、朝読書、漢字タイム、計算タイムを設定することで、一日や一週間の生活リズムを整えるとともに、短時間の取り組みを継続的に行うことができ、習熟を図ることができた。

弾力的な指導体制づくり

教科担任制の導入や交換授業、複数指導（TTや少人数指導、習熟度別指導）の実施など、児童の実態に応じた弾力的な指導体制づくりができ、より個に応じた指導（学習）方法の工夫を図ることができた。

評価を生かした授業改善

評価規準を児童の自己評価に活用したことで、児童が学習のめあてをもって意欲的に取り組む様子が多く見られるようになった。また、教師側の評価と照らし合わせることで、児童の自己評価力向上への手立てを考察することができた。

コース選択習熟学習の設定

毎学期の算数科で各学年3時間のコース選択習熟学習を実施し、習熟を図るとともに、学習意欲を喚起できた。

2) 今年度の具体的な取り組み

昨年度からの取り組みを継続しながら、今年度は「指導と評価の一体化」をより具体化するために、従来の通知表とは別に二学期より単元毎の通知表ともいえる「単元のあゆみ」、また基礎学力の通知表ともいえる「読み書き計算のあゆみ」を発行することとした。

校内研では、一学期に各学級、学年で独自に取り組んだ「単元のあゆみ」の実践レポート報告会を行い、「単元のあゆみ」の内容やその成果と課題等の報告を基に国語研究部会、算数研究部会において「単元のあゆみ」を練り上げ、提案し、二学期からの実施に至った。

「単元のあゆみ」の発行

「単元のあゆみ」は指導と評価の一体化の具体的手立てとして、評価のサイクルを単元という短いスパンで行い、子どもの学びの姿の実態認識の共有化を行うと共に、その後の評価に生かしていくものである。

「単元のあゆみ」の内容項目としては、「単元名」、評価規準の入った「学習のめあて」、市販のテストの全国平均点を参考にして設定した期待得点を入れ込んだ観点別「テスト結果」、児童の自己評価・児童の感想・教師からのコメントを書く「学習をふりかえって」、最後に「保護者の確認印」の欄を設けている。時折、欄外に保護者からの心温まるコメントをいただくことがあり、教師自身の励みにもなっている。

「読み書き計算のあゆみ」の発行

「読み書き計算のあゆみ」は、基礎学力の定着度を同一学期に同一内容で定点観測しながら、定着の度合いを指導に活かすための尺度の導入の取り組みである。繰り返し学習による伸び率を子どもの自信や意欲に繋げていきたいと考えている。

各内容毎に下記のように合格基準を設定している。

合格基準

- ・スラスラ音読（合格基準・1分間300字以上）
- ・漢字の読み（合格基準・前学期の90%以上）
- ・漢字の書き（合格基準・前学期の80%以上）
- ・基礎計算（合格基準・前学期の計算問題80%以上）

二学期末の校内研修での実践交流の場において、スラスラ音読については、速さに重点がいつてしまい、正しい読み方ができていない現状であり、一人一人について把握すると時間がかかることから、三学期からの音読指導に関しては常時指導の

中で各学級毎に評価していくことにした。

そして、伸び率を記録に残した「読み書き計算のあゆみ」を保護者に向けて発行している。

指導案形式、研究授業の工夫改善
改善点の一つとして、授業の視点を明確にすることにした。本校では、学力向上プロジェクト事業における研究主題を「一人一人の“わかる”“できる”“やってみよう”をめざして」と設定している。子どもたちの“わかる”喜び、“できる”楽しさ、“やってみよう”という意欲の喚起には、多様なアプローチの方法があると考えて、大きく分けて三つのパターンを試みることにした。
研究授業においては、参観者が児童一人一人に目を配り、観察できるように児童座席表を手渡している。そして、授業後には、そのメモを基にして、一人一人の児童の実態や事例等についての研究協議を行っている。また、児童による授業評価表の改善としては、学習内容も取り入れた評価項目を設定することにより、形成的評価として活用していることがあげられる。

授業改善レポート報告会
授業改善にどのように取り組んできたのか、1月に授業改善レポート報告会を行った。一人一人の子どもに視点を置き、特に具体的にどのような手立てをして改善しようとしていったのか各自の取り組みを報告し合い、研修を深めることができた。三学期の取り組みについても3月にレポート報告会を行う予定である。

(3) 研究の成果と課題

<成果>

- ・「単元のあゆみ」の導入により、評価規準、数値的な目標を明確に持って授業に取り組むようになり、特にCRTでCと判定された児童への対応がよりきめ細かになってきた。また子どもを見る目や関わり方が変わってきた。
- ・「読み書き計算のあゆみ」の取り組みによって、基礎学力の定着度を定期的に把握することができ、そのことによって個に応じた指導の有効性が高まった。
- ・「単元のあゆみ」や「読み書き計算のあゆみ」に、それぞれ数値化を導入することによって到達レベルが明確になり、児童の学習意欲が高まってきた。また、「単元のあゆみ」の自己評価欄の記入を通して、自己評価力が高まってきた。
- ・保護者へのアンケートの結果、子どもの学習状況や到達状況が分かり易いという高い評価を得ることができた。
- ・県外講師による公開授業を参観し、授業改善の具体的な手立てを学ぶことができ、学級の実態に応じて学んだことを生かすことができた。
- ・研究授業や公開授業を通して自らの実践を開くことにより、自分自身の授業を多面的に振り返ることができ、子どもの実態に応じた授業改善に繋げることができた。
- ・授業改善レポート報告会を開くことにより、具体的な取り組みを学び合い、その手立てを実践に生かすことができた。

<課題>

- ・「単元のあゆみ」を授業改善にどう生かしていくのか、「単元のあゆみ」をよりよいものに練り上げていくための改善点などについて、職員が意見を交流し合う場を今以上に持つ必要がある。
- ・国語や算数という教科だけでなく、心の教育を含めた総合的観点から、本校が捉える学力観に立って、子どもの学力を育む必要がある。
- ・定期的に授業研究に参加してもらえる先生と連携をとるなど、外部の視点を取り入れた授業研究をさらに深めていきたい。

(4) 研究成果の普及の方策

- 14年度 説明会(10月10日、保護者対象説明会、授業公開)
- 15年度 中間発表会(11月30日、授業公開、実践発表)
研究に関わる資料をHP上に公開する(1月)
高知県学力向上推進協議会で実践発表(2月)
大方町内の広報誌に取り組みを紹介(3月号)
- 16年度 研究発表会(12月上旬予定、授業公開、研究発表)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】
指導と評価の一体化を目指し、国語・算数に絞って、単元ごとに評価規準等を記入した個人カルテを単元のあゆみとして保護者に向けて発信している。